

名勝 披雲閣庭園

大正時代の披雲閣建築に伴い、東京の庭師大胡勘蔵によって披雲閣庭園も作庭されました。大胡勘蔵は同時期のサンフランシスコ万博において日本庭園の作庭をてがけたうちの1人でもあります。北側一帯の築山など江戸時代の庭園を一部残しながら、新たに庭園の中央に枯川を設け、庭木には主に松（約600本）とウバメガシ（約200本）を用い、大型の石燈籠、手水鉢、井戸、飛石などの石造品を配置している点などが特徴です。近代になってから旧城主によって城の中に作られた庭園として希少な事例であることから、平成25年（2013）に国の名勝に指定されています。



銀閣寺型手水鉢と庭園

銀閣寺型手水鉢は庵治石製のもので、重量11tと言われています。京都銀閣寺まで職人を派遣して作らせたもので、当時2万円の作庭費のうち、千円を要したとされます。



石橋

枯川に架かる石橋は昭和3年（1928）に高松城跡の西側で開催された全国産業博覧会に出品されたものを設置したものです。庵治石製で、欄干まで1石から削り抜かれています。

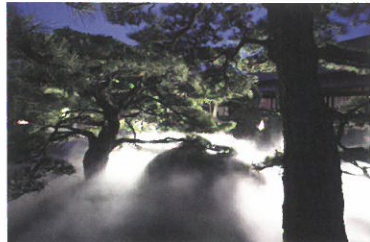


昭和天皇后陛下御手植松

大正11年（1922）に昭和天皇が披雲閣を行啓された際に植樹された松（右）。さらに、当時婚約中だった香淳皇后が翌年に御成りになられた際、その左隣に寄り添うように松を植樹されました。

都市公園 玉藻公園

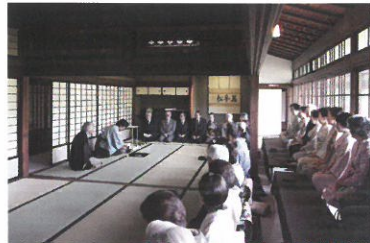
史跡高松城跡は、昭和29年（1954）に高松市の所有となり、昭和30年（1955）5月5日に玉藻公園として開園しました。現在は、市街地にあって高松市の貴重な公園として整備され、市民の憩いと潤いの場として活用されています。また、その歴史的環境を活用した四季を通じてのイベントも催され、多くの市民に利用されています。また、披雲閣は貸館としてお茶会や展示会、結婚式、披露宴など多彩なイベントが催され、市民に親しまれています。



夏の夜のライトアップミストシャワー



鯛の餌やり体験



お茶会



コンサート

開園時間	西門開門時間	東門開門時間
4～5月	5時30分～18時30分	7時00分～18時00分
6～8月	5時30分～19時00分	
9月	5時30分～18時30分	
10月	6時00分～17時30分	
11月	6時30分～17時00分	8時30分～17時00分
12～1月	7時00分～17時00分	
2月	7時00分～17時30分	
3月	6時30分～18時00分	



玉藻公園の四季

問い合わせ

〒760-0030 香川県高松市玉藻町2番1号

玉藻公園管理事務所

TEL:087-851-1521 FAX:087-823-6390

<http://www.tamamokoen.com>

2014.11.30 高松市文化財課（087-839-2660）発行
本紙は公益財団法人松平公益会の助成事業により作成したものです。

史跡 高松城跡（玉藻公園）

高松城跡の概要

天正15年（1587）に豊臣秀吉から讃岐一国を与えられた生駒親正は、翌16年（1588）から香東郡野原郷において築城を開始しました。親正は築城に際し、地名を高松に改めました。

北は瀬戸内海に面し、内堀・中堀・外堀の3重の堀で残り3方を取り囲んだ平城（水城）で、その縄張り（設計）は黒田孝高（如水）・藤堂高虎・細川忠興などの諸説があります。高松城は玉藻城とも呼ばれていますが、讃岐の国の枕詞「玉藻よし」に由来すると言われています。

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いでは、親正は石田三成に味方しますが、子の一正は徳川家康に味方したことから、讃岐国17万1800石余は改めて一正に与えられ、慶長7年（1602）から高松城を居城としました。生駒家の治世は寛永17年（1640）まで4代54年間におよびましたが、寛永17年（1640）に生駒騒動と呼ばれる家臣団同士による対立が生じ、領地を没収され、出羽国矢島1万石に移されました。

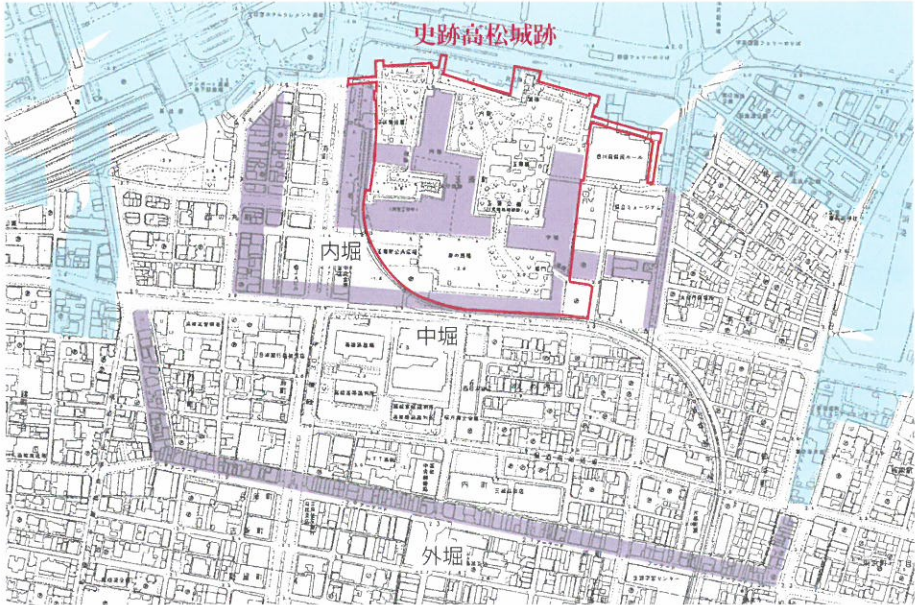
その後、寛永19年（1642）に松平頼重に東讃12万石が与えられました。頼重は徳川家康の孫で、徳川光圀（水戸黄門）の兄にあたり、西国大名の監察役を命じられたとも言われています。また光圀は兄を差し置いて水戸徳川家を継いだことを悔いて、頼重の子綱条を水戸徳川家に迎え、実子頼常を頼重の養子としました。これ以後、幕末まで高松松平家は水戸徳川家と養子縁組を繰り返していきました。

頼重は入部3年目の寛永21年（1644）に高松城の改修をはじめ、寛文10年（1670）に天守を改築し、翌年から東の丸、北の丸を新造しました。それを引き継いだ2代藩主頼常は月見櫓（着見櫓）や良櫓などを建てました。これらの改修に伴い大手を南側から東側に移動し、三の丸に御殿を建てました。その後、城は大きな改変は行われず、11代にわたって松平氏の居城となっていました。が、慶応4年（1868）に官軍に開城することとなりました。

明治時代には城の中心部は陸軍の所有となり、天守をはじめとする多くの建物が取り壊されるとともに、外堀や海が埋め立てられ市街化が進みました。城の中心部は明治23年（1890）に再び松平家に払い下げとなり、天守台に藩祖頼重を祀る玉藻廟、三の丸に松平家の別邸として披雲閣が建築されました。昭和20年（1945）には戦災で桜御門が焼失しましたが、昭和22年（1947）に良櫓など4棟が国の重要文化財に指定されました。昭和29年（1954）には城跡は高松市の所有となり、翌30年（1955）に国の史跡に指定されるとともに、玉藻公園として一般に公開され、市民に親しまれています。さらに、平成24年（2012）には披雲閣（旧松平家高松別邸）の3棟が国の重要文化財に、翌25年（2013）には披雲閣庭園が国の名勝に指定されています。これにより、高松城跡は史跡・名勝・重要文化財の3重指定となりました。

歴代藩主

	藩主	藩主期間
1	生駒親正（ちかまさ）	1587～1601
2	生駒一正（かずまさ）	1601～1610
3	生駒正俊（まさとし）	1610～1621
4	生駒高俊（たかとし）	1621～1640
1	松平頼重（よりしげ）	1642～1673
2	松平頼常（よりつね）	1673～1704
3	松平頼豊（よりとよ）	1704～1735
4	松平頼桓（よりたけ）	1735～1739
5	松平頼恭（よりたか）	1739～1771
6	松平頼眞（よりざね）	1771～1780
7	松平頼起（よりおき）	1780～1792
8	松平頼儀（よりのり）	1792～1821
9	松平頼恕（よりひろ）	1821～1842
10	松平頼胤（よりたね）	1842～1861
11	松平頼聰（よりとし）	1861～1869



かつての高松城と現在の史跡高松城跡